

意見陳述（要旨）

神奈川県教育委員会
教育長 花田 忠雄 様

2025 年度に向けて、全日制を希望する子は全日制で、
定時制を希望する子は定時制で、通信制を希望する子は通信制で、
子どもたちが安心して学べるように、十分な条件整備をもとめる請願

2024 年 8 月 6 日

かながわ定時制・通信制・高校教育を考える懇談会
事務局 保永 博行

この請願の要求の中心は、「93.5%の全日制進学率の実現」と「公私立高校の授業料完全無償化」です。

「93.5%の全日制進学率の実現」（請願項目 3）の理由は、

- ① 「適正な全日制進学率の実現」は「生徒の人権」であるからです。
- ② 93.5%の全日制進学率の実現は、神奈川県にとって、決して不可能でないし、他の都府県とくらべても無理のない数値でもあるからです。
- ③ 93.5%は 1999 年の「県立高校改革推進計画」で県が県民に約束した数値であるからです。

「公私立高校の授業料完全無償化」（所得制限撤廃）（請願項目 5）の理由は

- ① 家庭の経済的事情は子どもの責任ではありません。
- ② 家庭の経済的事情にかかわらず高校教育が受けられることは重要です。
- ③ 大人になる前に平等な教育を経験することは、民主主義の社会において、主権者を育てる教育をする上で必須であるからです（自分が社会に支えられているという体験をする）。

全日制進学率が 2022 年春 89.6%、2023 年 89.3%、2024 年 88.2%と 80%台に再び低下し、継続していることに、危機感を覚えます。

「全日制進学率の低下」は「県立高校の募集定数が充足できていない」ことが主な原因です。また、10 月に実施される中学 3 年生への「公立中学等卒業予定者の進路希望の状況」でも、ここ数年「県立高校への希望率の低下」が見られます。

2016 年から始まった「県立高校改革（県立高校改革実施計画）」は失敗ではないのか。今の県立高校が中学生にどう映っているのか。改善すべき点は無いか、よく検討して、県立高校のあり方を改善し、生徒の実態と要求に合った募集計画を策定しなければなりません。

以上、よろしくお願い致します。

